

令和5年度病虫害発生予察予報第3号（令和5年6月）

令和5年6月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (早期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	平年並(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、中西、西) <u>多(中西)</u> 、平年並(東、中央、西) 平年並(県下全域)
水稲 (普通期稲)	いもち病 イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> やや少(県下全域) <u>多(県下全域)</u>
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	<u>多(中央)、やや多(東)</u> 、少(中西、西) <u>やや多(東、中央、中西)</u> 、少(西) 平年並(県下全域) <u>多(中央)、やや多(東)</u> 、平年並(中西)、少(西)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 6 月 1 日発表）

6 月 3 日から 7 月 2 日までの天候見通し

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

向こう 1 か月の気温と降水量、日照時間はほぼ平年並でしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温と降水量、日照時間は、平年並の確率 40% です。

週別の気温は、1 週目と 2 週目は平年並の確率が 50% です。3 ～ 4 週目は、平年並の確率が 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	30	40	30
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率 (%)＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	30	50	20
2 週目		20	50	30
3 ～ 4 週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：6 月 3 日(土)～7 月 2 日(日)

1 週目：6 月 3 日(土)～6 月 9 日(金)

2 週目：6 月 10 日(土)～6 月 16 日(金)

3 ～ 4 週目：6 月 17 日(土)～6 月 30 日(金)

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量：平年並(県下全域)

根 拠

(1) 5 月の調査では本病の発生が見られず、予察田においても発生が見られていないが、本年の梅雨入りは平年より 7 日早いうえ、向こう 1 か月の降水量および日照時間は平年並と予想されており、今後、本病の発病に好適な条件が出現しやすくなると考えられる。

(2) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5 月 19 日に高知で、同 23 日に安芸、高知、須崎および宿毛で、同 30 日に安芸、後免および高知で、同 31 日に宿毛で感染好適日が確認されている(BLASTAM による葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所 HP を参照)。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 6月の気温は平年並と予想されているため、本虫の発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 近年、本虫の媒介する萎縮病の発生はほとんど見られていないことから、低密度時に薬剤防除を実施する必要はない。しかし、出穂期から登熟期にかけて本虫の密度が高くなると実の充実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（東部、中央部、西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では県中西部で平年よりも早く発生が見られた。
- (2) 6月の気温は平年並と予想されているため、本虫の発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いが、発生が多い場合は、他の病害虫との同時防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 5月の調査では県内での発生は確認されていないが、例年、6月～7月に大陸から飛来するため、梅雨時期以降は発生が増加すると予想される。

対 策

- (1) セジロウンカは、トビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫である。ほ場内での発生に注意し、飛来が多く、成虫数が株当たり5頭以上になったときは薬剤防除を行う。

2 普通期稲の病害虫

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 本年の梅雨入りは平年より7日早いうえ、向こう1か月の降水量、日照時間はともに平年並と予想されていることから、今後、本病の発病に好適な条件が出現しやすくなると考えられる。

(2) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5月19日に高知で、同23日に安芸、高知、須崎および宿毛で、同30日に安芸、後免および高知で、同31日に宿毛で感染好適日が確認されている(BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照)。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) イネミズゾウムシ

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では平年よりやや少ない発生であった。6月の気温は平年並と予想されており、平年と同様に移植後すぐに本田への侵入が見られるものと考えられる。

対 策

- (1) 育苗箱施用剤の処理が一般的になっており、実害はないと考えられる。

3) スクミリンゴガイ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では全般的に平年よりも発生がやや多く、普通期稲においても発生が多くなると考えられる。
- (2) 6月の気温は平年並と予想されていることから、活動は活発になり、移植後は被害を受けやすいと考えられる。

対 策

- (1) 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。

3 カンキツ(温州ミカン)の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 5月の調査では発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 6月の降水量および日照時間は平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多くなる見込みであることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねた予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抛

- (1) 5月の調査では、発生面積は平年よりも多かった。
- (2) 6月の降水量および日照時間は平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多い見込みで、引き続き多発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 抛

- (1) 5月の調査では、発生面積は平年よりもやや多かった。
- (2) 6月の気温、降水量ともに平年並と予想されているため、発生量の増加は比較적으로少なく、現状の発生量で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、少(中西部、西部)

根 抛

- (1) 5月の調査では県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部で平年並であった。
- (2) 6月の降水量、日照時間ともに平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多い見込みであることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：やや多(東部、中央部、中西部)、少(西部)

根 抛

- (1) 5月の調査では、県西部以外の地域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年並であった。
- (2) 6月の降水量、日照時間ともに平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多い見込みであることから、既発ほ場では発生が増加し、未発生ほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 5月の調査では発生は見られなかったが、6月の降水量、日照時間ともに平年並と予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多い見込みであることから、常発ほ場を中心に本病の発生が見られるようになると予想される。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる枝は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部）、平年並（中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では、県西部以外の地域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部でやや多く、中西部で平年並であった。

- (2) 6月の降水量は平年並と予想されているため、発生の増加は見込まれず、現在の発生量が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)